

ご挨拶（パリ）

ニコラ・フィエヴェ
フランス国立科学研究センター（CNRS）研究者
日本文明研究チーム責任者
中国・日本・チベット文明研究所所長補佐

『18 世紀～19 世紀、江戸から東京へ：都市文化の構築と表象』と題されたこのシンポジウムは、お茶の水女子大学「比較日本学研究センター」によって主催され、コレージュ・ド・フランスの「中国・日本・チベット文明研究所」（UMR 7133）「日本文明」研究チームの協力を得て、2006 年 3 月 24 日～25 日に、パリのコレージュ・ド・フランスで開かれました。

このシンポジウムの主要テーマは、江戸時代および明治時代の名所記や名所図会を通した都市の表象に集中していますが、この 2 日間の会議の間には、文学を通した都市の表象についてのいくつかの補足的な側面も論じられました。すなわち、樋口一葉の作品の中に復元された東京のイメージ、泉鏡花の作品にもとづいた深川界隈のイメージ、西鶴の小説世界に出現する江戸、都市空間のただ中に立ち現れた超自然的な生き物（妖怪）の場所などがそれです。さらに、なかでも名所図会が 19 世紀のフランスでどう受容されたかの研究や、1867 年から 1878 年の間に第二次フランス軍事顧問団として日本に渡ったフランス人将校が撮った写真による近代建築の紹介などを通して、この東京という都市が西洋人の眼にどう映っていたかということも、同様に論じられました。その当時の日本についての 19 世紀フランス人のこうした交錯した眼差しは、古きよきフランスへの絵画的でロマン主義的な旅における名所や有名な建造物の紹介によって完全なものになりました。

コレージュ・ド・フランスの「日本文明」研究のチームは、フランス国立科学研究センター（CNRS）の研究者、フランス高等研究院（EPHE）パリ第 7 大学の教員研究者および博士課程研究者という、すべて日本文明を専門とする者からなる混成研究組織です。この組織は、まちがいはなく、日本に関する専門家の最大多数をまとめるフランスの研究グループです。これら研究者の活動領域は、当初は、人文科学や社会科学（歴史、思想・制度史、宗教と信仰、文学）という研究分野の比較的古い見方に従って主に分類されていましたが、数年前から、民族人類学、科学・技術・医学史、言語学、建築、都市計画（工学）と拡張再分割されました。

「日本文明」チームは、お茶の水女子大学比較日本学研究センター主催によるこのシンポジウムを、コレージュ・

ド・フランスのこの地にお迎えできたことを、誠に嬉しく思いました。お茶の水女子大学からは、このシンポジウムに 6 名の教授と 4 名の博士課程研究者が参加され、さらに喜ばしいことに、お茶の水女子大学の特に哲学に精通された教育研究者の御一行も列席されました。2 日間のシンポジウムの間に行われた円卓会議（ラウンド・テーブル）での発言や活気あるやり取りを拝見して、まったく同じ研究対象でもフランスと日本の二つの異なる眼差しが、これら二つの文化それぞれに生き生きした興味関心を引き起こすことができるのだと感じました。日本語文化についてのフランス人研究者が多数列席して議論に参加したこと、さらに日本文化を専門としない歴史学や地理学のフランス人大学研究者が参加したことは、この学問上の一大行事の重要性も示していたと思います。

コレージュ・ド・フランスの「日本文明」研究チームのメンバーは、二つの研究機関の間のこの最初の学問的な会議（出会い）の結果、近い将来、お茶の水女子大学と、学問的、知的そして大学間の交流をさらに発展させることができると願っています。

パリ、2006 年 6 月 14 日

（翻訳・石田 安志（東京女子大学非常勤講師））